

科目名	新	社会学	担当者	服部 慶巨	部別	第一部	期間	通年	単位数	4
	旧	社会学								

【授業概要】

授業目的	人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。故に、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。また、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。このような現実を、理論的・実践的に理解していきたい。			
到達目標	「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？ そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会的な視点を身につけてゆく。			
履修条件	特になし			
授業方法	受講生自身も陥りがちな問題行動を例示し、講義する。教科書・参考書・プリント・板書を理解の助けとする。			
準備学習	特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）して次の講義に臨んでほしい。社会学を「机上の学問」としてではなく、日常と密接に関連した学問としてとらえてほしい。			
成績評価	種別		割合	評価基準
	定期試験	筆記試験	70%	講義内容をどの程度理解したか、どの程度自分の日常に活かしているのかを確認する。
		レポート試験	0%	
	平常評価		30%	受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する予定。
教科書	池田勝徳（編著）『現代社会に潜む諸問題とその対応』八千代出版			
参考書	追って指示する			

【授業区分】

区分	授業内容	区分	授業内容
1	ガイダンス（講義の方針、展開方法、目標など）	16	問題行動の根源① 「問題行動」のとらえ方
2	状況（情況）判断	17	視聴覚機器による問題行動の理解①
3	社会（学）とは何か？	18	問題行動の根源② 同調行動
4	社会的動物としての人間① Double Happiness	19	問題行動の根源③ 他人志向
5	社会的動物としての人間② 生理的早産	20	視聴覚機器による問題行動の理解②
6	人間関係の諸相と構造① 総論	21	問題行動の根源④ 行為と行動
7	人間関係の諸相と構造② 地位（status）	22	問題行動の根源⑤ 日本（人）的「愛」「共感性」
8	人間関係の諸相と構造③ 役割（role）	23	問題行動の根源⑥ 罪
9	アイドル（idol）工学	24	問題行動の誤対処① アノミー（anomie）
10	「らしさ」の培養① 文化（culture）	25	問題行動の誤対処② 人生縮小化
11	「らしさ」の培養② パーソナリティ（personality）	26	問題行動の誤対処③ リセット願望とリロード願望
12	「らしさ」の培養③ ジェンダー（gender）	27	問題行動の誤対処④ 日本（人）的「甘え」
13	「らしさ」の培養④ 県民性	28	問題行動の誤対処⑤ 防衛機制
14	実験演習Ⅰ	29	実験演習Ⅱ
15	前半まとめ	30	まとめ